



女用  
至宝  
都石齋畫  
全





名一





才三有る作  
 抑々そまふふこま  
 るこまふふふのあま  
 まいもいふふふふ  
 こけふふふふふ  
 かりかあふのこま  
 りまふふふふふ  
 ふふふふふふふ  
 のふふふふ

有心体  
 ほのこま  
 かなの  
 けふふ  
 まふふ  
 けふの  
 うまふ  
 けふ  
 かり



あは

才四有る作  
 まれふふふふふ  
 つふふふふふ  
 うふふふふふ  
 とふふふふふ  
 ふふふふふふ  
 ふふふふふふ  
 ふふふふふふ  
 ふふふふふふ

鹿体  
 けふふ  
 いふふ  
 けふ  
 けふ  
 けふ  
 けふ  
 けふ



才五半五半て結結伴伴  
 ろつらつわやうそ  
 わるきとらふそ  
 年あひ老おのたが一ひと入いり  
 のまじりそそそ  
 がぬこししそそ  
 よそまそそそ  
 ともまそそ  
 そらまそそ  
 まらまそそ



才六六面白面白作作  
 むじとちいねり  
 つらつらそそ  
 ろららそそ  
 ろららそそ  
 ろららそそ  
 ろららそそ  
 ろららそそ  
 ろららそそ













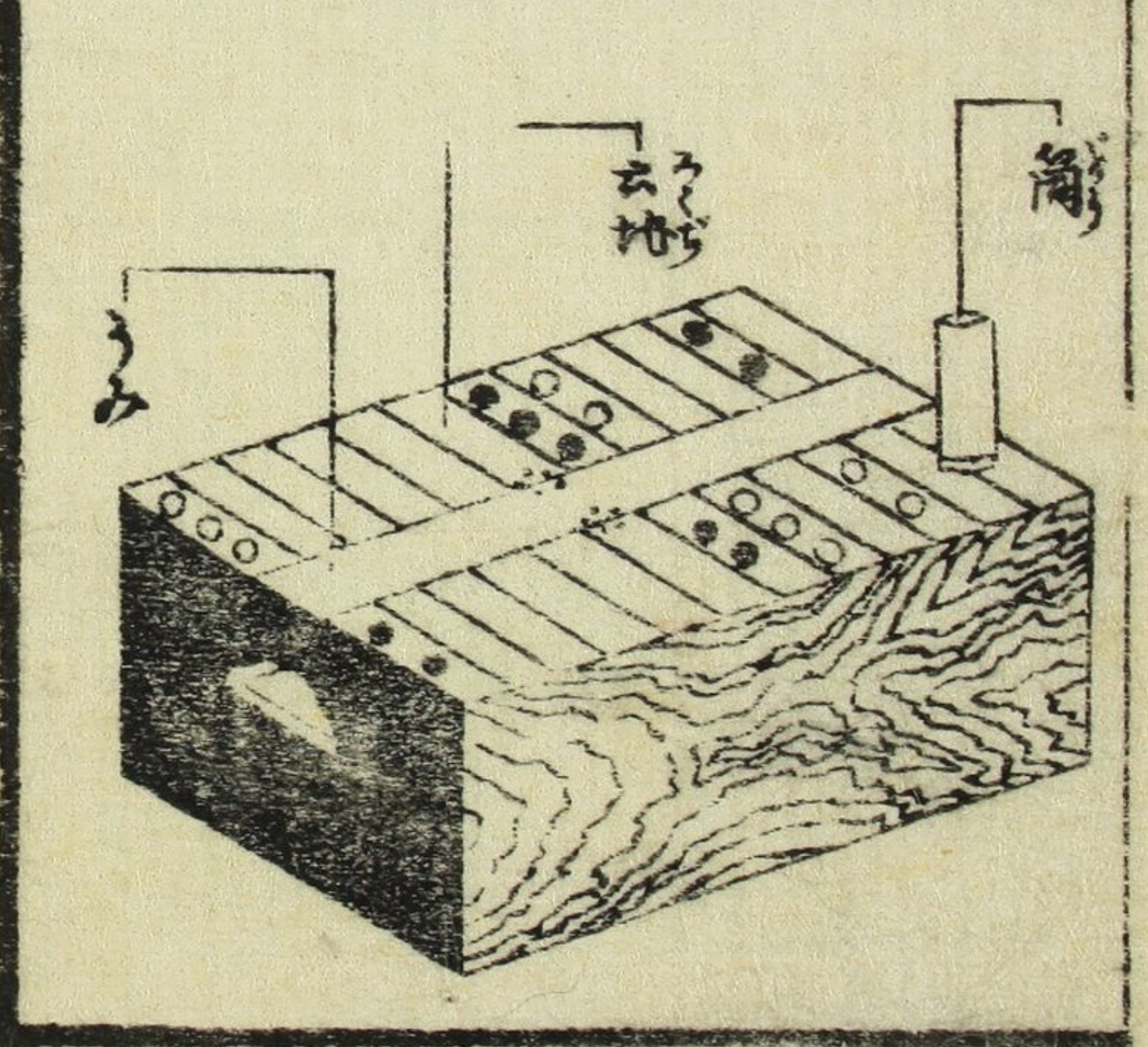
姑<sup>ぢ</sup>も二三<sup>二三</sup>を尋<sup>たず</sup>ねて  
 うら<sup>うら</sup>の試<sup>し</sup>は<sup>は</sup>三<sup>三</sup>と  
 試<sup>し</sup>あ<sup>あ</sup>る<sup>る</sup>一<sup>一</sup>と<sup>と</sup>も<sup>も</sup>切<sup>き</sup>つ<sup>つ</sup>お  
 ち<sup>ち</sup>の<sup>の</sup>切<sup>き</sup>り<sup>り</sup>は<sup>は</sup>か<sup>か</sup>ら<sup>ら</sup>い<sup>い</sup>え  
 え<sup>え</sup>な<sup>な</sup>お<sup>お</sup>を<sup>を</sup>そ<sup>そ</sup>の<sup>の</sup>又<sup>また</sup>試<sup>し</sup>あ  
 へ<sup>へ</sup>ん<sup>ん</sup>よ<sup>よ</sup>も<sup>も</sup>た<sup>た</sup>ら<sup>ら</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>は<sup>は</sup>な<sup>な</sup>ら<sup>ら</sup>ず  
 て<sup>て</sup>も<sup>も</sup>死<sup>し</sup>へ<sup>へ</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>ず<sup>ず</sup>も<sup>も</sup>  
 二<sup>二</sup>の<sup>の</sup>一<sup>一</sup>と<sup>と</sup>も<sup>も</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>こ  
 ろ<sup>ろ</sup>の<sup>の</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>れ<sup>れ</sup>も<sup>も</sup>お<sup>お</sup>も<sup>も</sup>い<sup>い</sup>ま<sup>ま</sup>す  
 ち<sup>ち</sup>ま<sup>ま</sup>い<sup>い</sup>ら<sup>ら</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>は<sup>は</sup>な<sup>な</sup>ら<sup>ら</sup>ず



十<sup>十</sup>が<sup>が</sup>う<sup>う</sup>ら<sup>ら</sup>ま<sup>ま</sup>を<sup>を</sup>試<sup>し</sup>あ<sup>あ</sup>へ<sup>へ</sup>ん<sup>ん</sup>  
 う<sup>う</sup>ら<sup>ら</sup>の<sup>の</sup>切<sup>き</sup>り<sup>り</sup>は<sup>は</sup>か<sup>か</sup>ら<sup>ら</sup>い<sup>い</sup>え  
 ぬ<sup>ぬ</sup>れ<sup>れ</sup>も<sup>も</sup>お<sup>お</sup>も<sup>も</sup>い<sup>い</sup>ま<sup>ま</sup>す  
 ち<sup>ち</sup>ま<sup>ま</sup>い<sup>い</sup>ら<sup>ら</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>は<sup>は</sup>な<sup>な</sup>ら<sup>ら</sup>ず  
 う<sup>う</sup>ら<sup>ら</sup>の<sup>の</sup>切<sup>き</sup>り<sup>り</sup>は<sup>は</sup>か<sup>か</sup>ら<sup>ら</sup>い<sup>い</sup>え  
 ぬ<sup>ぬ</sup>れ<sup>れ</sup>も<sup>も</sup>お<sup>お</sup>も<sup>も</sup>い<sup>い</sup>ま<sup>ま</sup>す  
 ち<sup>ち</sup>ま<sup>ま</sup>い<sup>い</sup>ら<sup>ら</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>は<sup>は</sup>な<sup>な</sup>ら<sup>ら</sup>ず



○双立の陳王曹  
 子建の作の如く  
 ぬふてより唐茶  
 もてあまぶまり  
 唐の明皇もつね  
 ぐもあまひま  
 ひのふりてし  
 ら女のまこらまひと  
 けりらんたあまへ  
 るいさのまら



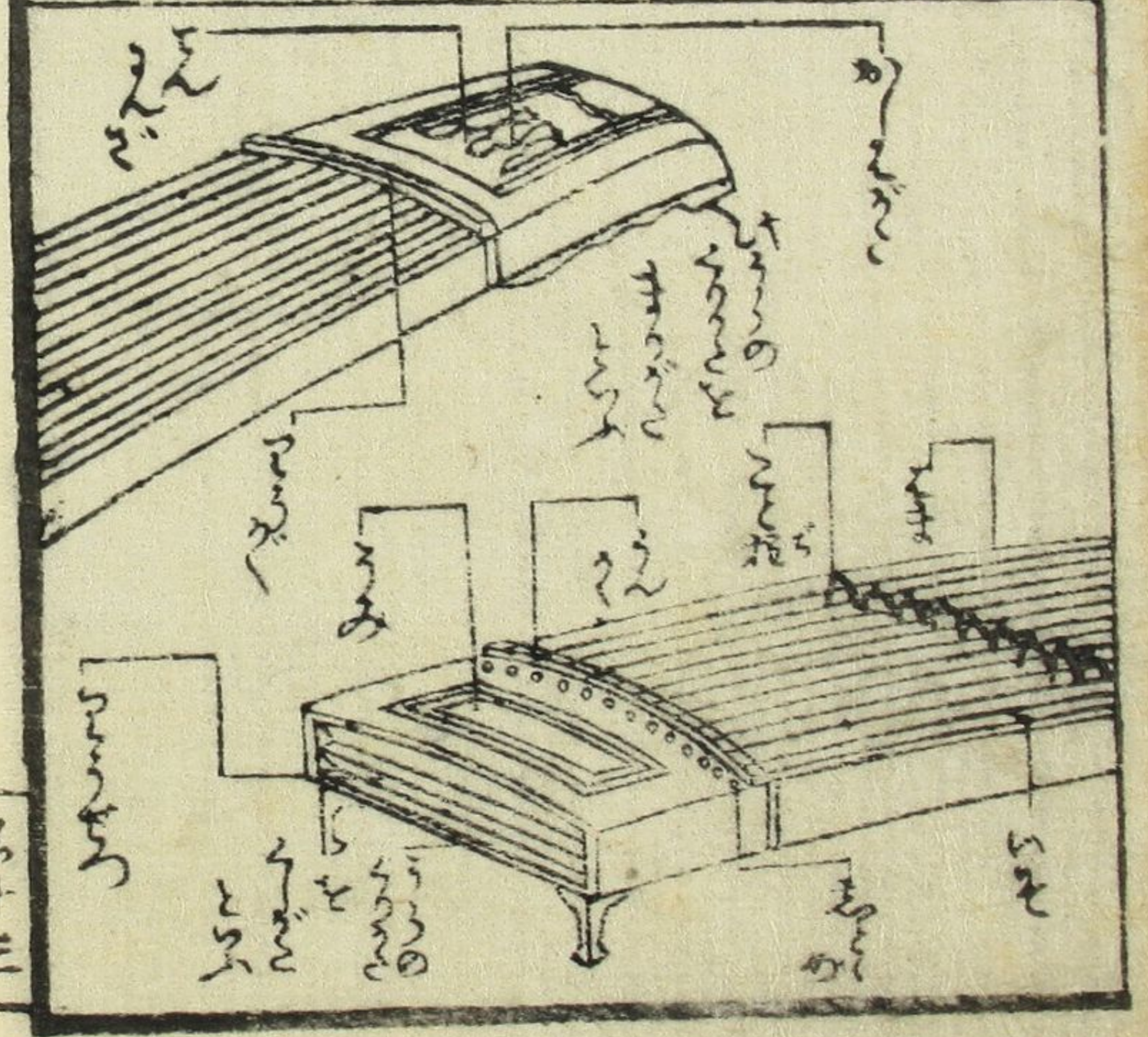
養月名月  
 童月 御月  
 ぢらち 一ち  
 ぢらち 二ち  
 ぢらち 三ち  
 ぢらち 四ち  
 ぢらち 五ち  
 ぢらち 六ち

大の田 三の  
 二の 二の  
 一の 一の  
 一の 一の  
 一の 一の

大の田 大の田  
 六の 六の



○ びんごうのりまろく  
伏見のつらね  
うらぶるまろく  
うらぶるまろく  
のきれいせいのりまろく  
あぶるまろく  
あぶるまろく  
あぶるまろく  
あぶるまろく  
あぶるまろく



三十一

組目六  
あぶるまろく  
あぶるまろく  
あぶるまろく  
あぶるまろく  
あぶるまろく  
あぶるまろく  
あぶるまろく  
あぶるまろく

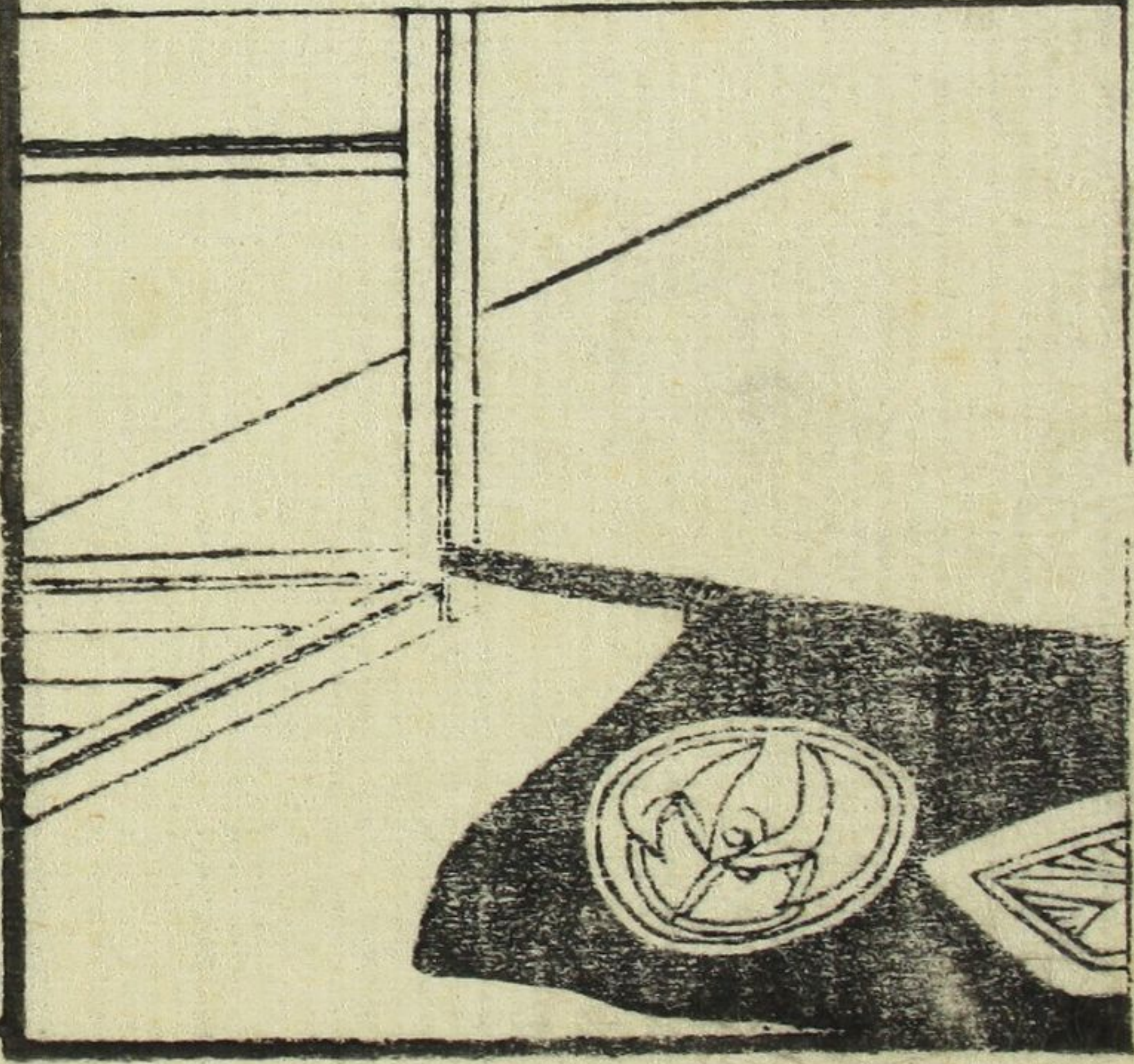
あぶるまろく  
あぶるまろく  
あぶるまろく  
あぶるまろく  
あぶるまろく  
あぶるまろく  
あぶるまろく  
あぶるまろく

あぶるまろく  
あぶるまろく  
あぶるまろく  
あぶるまろく  
あぶるまろく  
あぶるまろく  
あぶるまろく  
あぶるまろく

あぶるまろく  
あぶるまろく  
あぶるまろく  
あぶるまろく  
あぶるまろく  
あぶるまろく  
あぶるまろく  
あぶるまろく

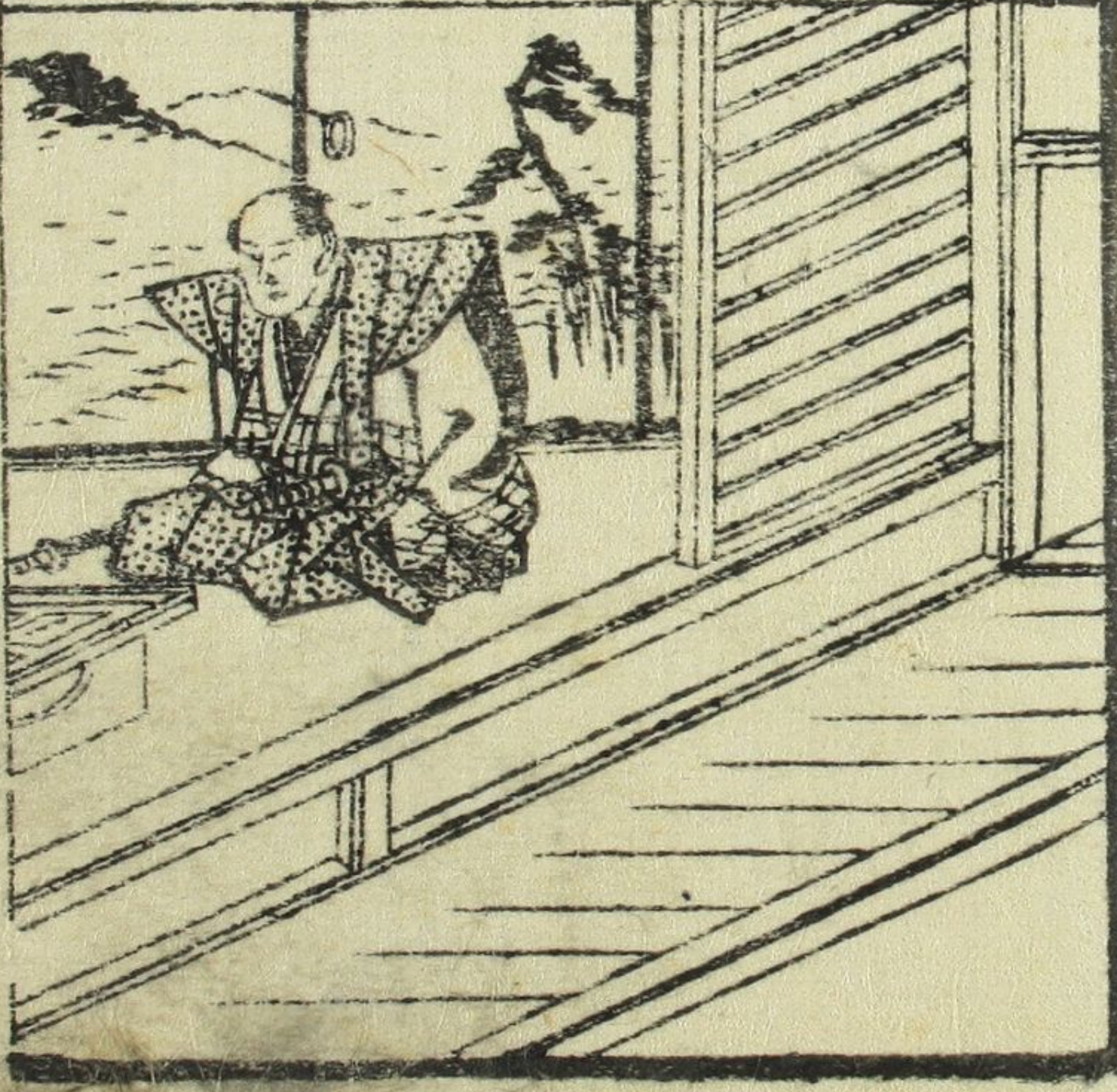
○月夜お紙まき

進工	とくろ	か	た	ろ	ろ	ろ
	いん	い	い	い	い	い
	と	と	と	と	と	と
	と	と	と	と	と	と
工						



とくろ

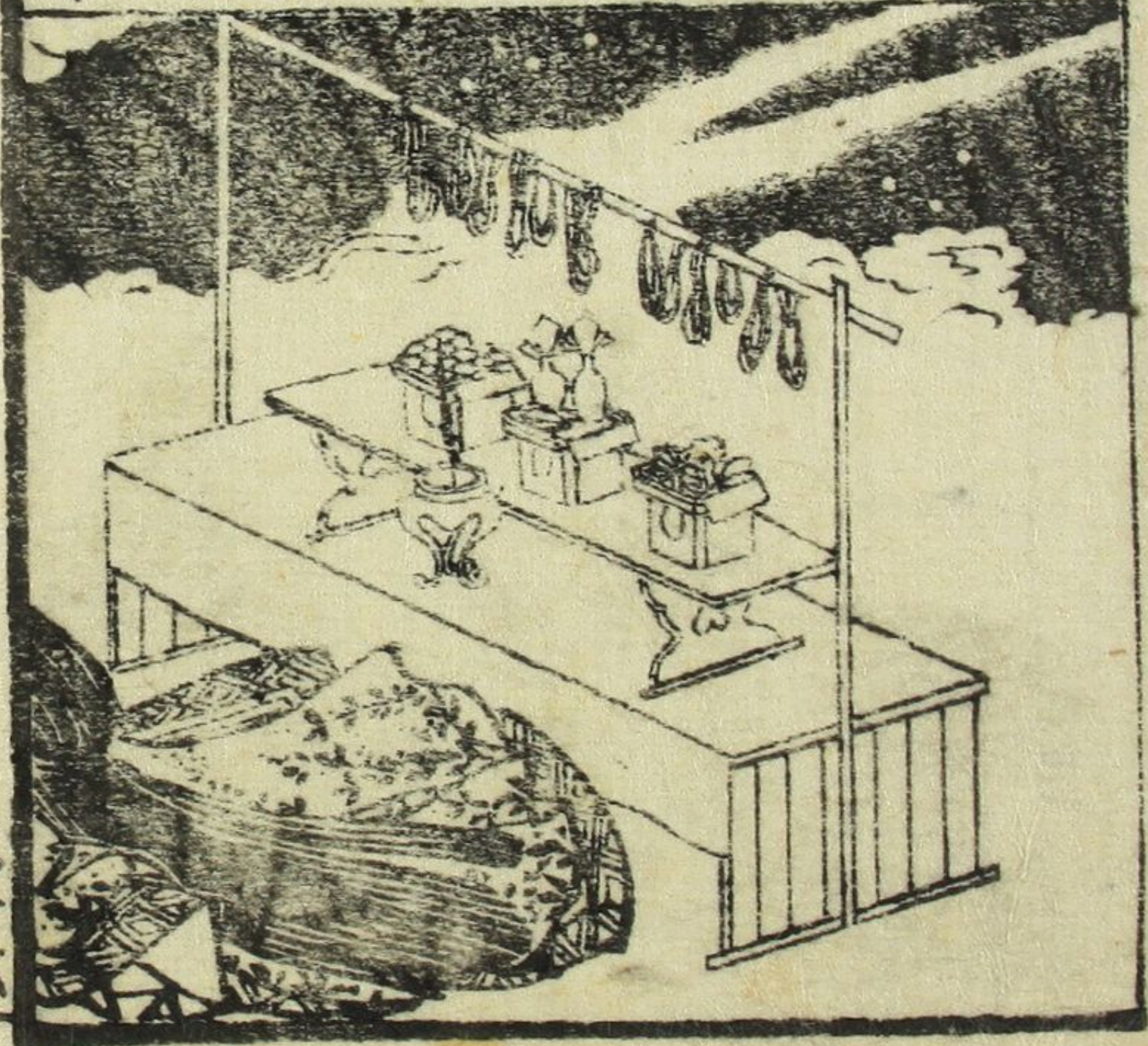
こころよく寝ひの  
 方へ又なほとま  
 小まらうとまはし  
 揚とまらうとまはし  
 美ふうとまはし  
 のまらうとまはし  
 小まらうとまはし  
 あんがとまはし  
 とまらうとまはし  
 こころよく寝ひの







◎七夕あつちの月  
 七月七月の夕暮  
 樹女のをさやいほの所  
 こそ逢ふ人をむす  
 ころ人望田十二村  
 春後天望よりそ  
 ままのりたてまつる  
 とめつけほの伊勢  
 と婦人年ふるまひの  
 糸をよひ男女け



七夕あつちの月  
 七月七月の夕暮  
 樹女のをさやいほの所  
 こそ逢ふ人をむす  
 ころ人望田十二村  
 春後天望よりそ  
 ままのりたてまつる  
 とめつけほの伊勢  
 と婦人年ふるまひの  
 糸をよひ男女け



けうきふくし  
とらふやせいの  
あれのちしよ  
しよふん

あひ  
あひ  
あひ  
あひ  
あひ  
あひ  
あひ  
あひ  
あひ  
あひ

よせ  
よせ  
よせ  
よせ  
よせ  
よせ  
よせ  
よせ  
よせ  
よせ

あひ  
あひ  
あひ  
あひ  
あひ  
あひ  
あひ  
あひ  
あひ  
あひ

あひ  
あひ  
あひ  
あひ  
あひ  
あひ  
あひ  
あひ  
あひ  
あひ

あひ  
あひ  
あひ  
あひ  
あひ  
あひ  
あひ  
あひ  
あひ  
あひ

あひ  
あひ  
あひ  
あひ  
あひ  
あひ  
あひ  
あひ  
あひ  
あひ

あひ  
あひ  
あひ  
あひ  
あひ  
あひ  
あひ  
あひ  
あひ  
あひ

らまひのあまの川  
あまの川  
あまの川  
あまの川

あまの川  
あまの川  
あまの川  
あまの川

あまの川  
あまの川  
あまの川  
あまの川

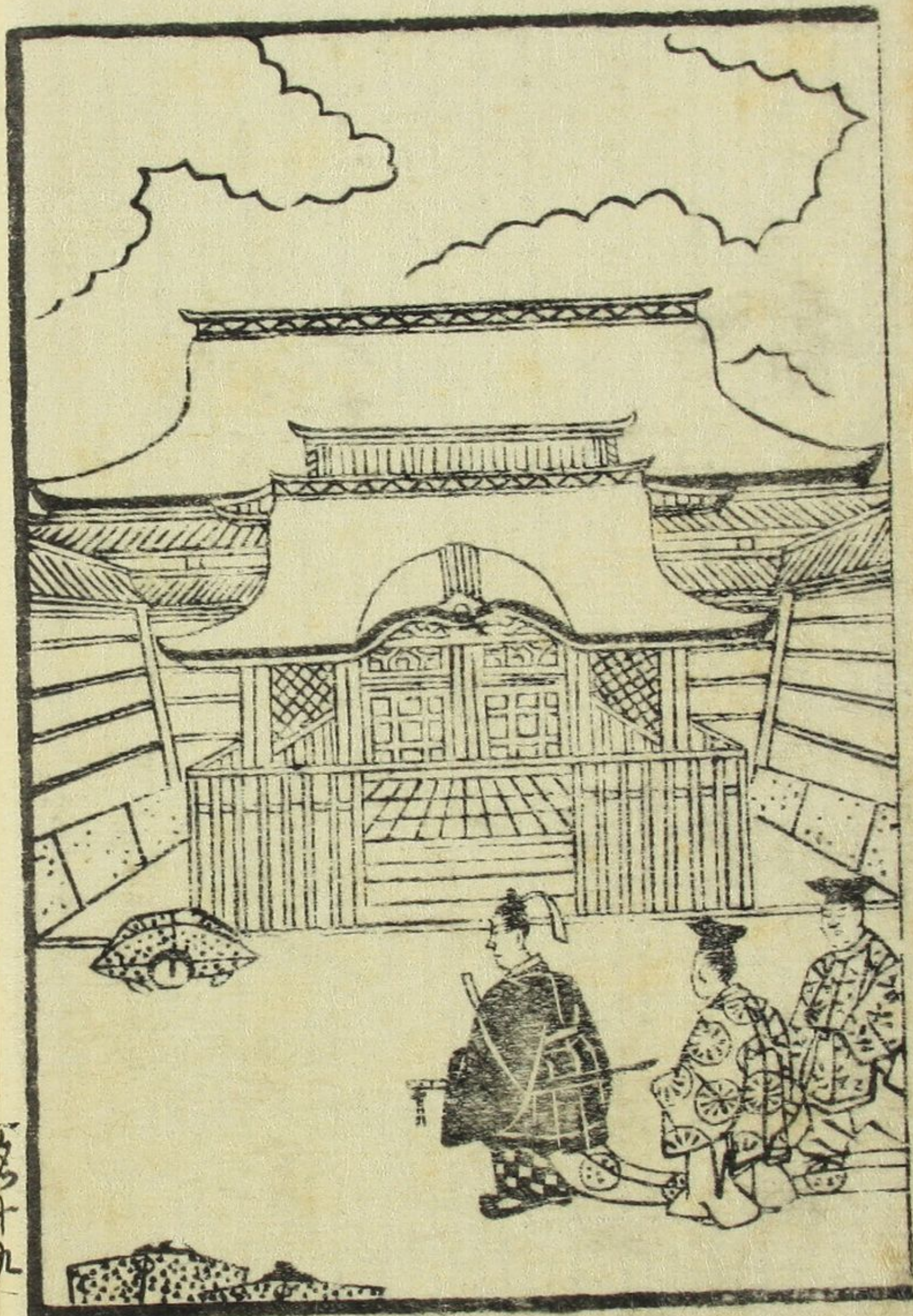
あまの川  
あまの川  
あまの川  
あまの川

あまの川  
あまの川  
あまの川  
あまの川

あまの川  
あまの川  
あまの川  
あまの川

あまの川  
あまの川  
あまの川  
あまの川

あまの川  
あまの川  
あまの川  
あまの川



三十六考仙

左様が人丸



不の  
あーの  
うーの  
おきりま  
まーのんり  
ふーのんり

右丸河門行恒



ひーの  
ふーの  
ふーの

都名新書

あれ京ち極武

天皇の御くら

よりげまきり

仲おら想のあま地

中納言ちゅうなごん ちゅうなごん

はつのみ

あつち

あつち

あつち

あつち

あつち



あつち



くさくさ

くさくさ

くさくさ

くさくさ

くさくさ

くさくさ

くさくさ

くさくさ

あつち

あつち

あつち

あつち

あつち

あつち

あつち

あつち

あつち

あつち

あつち



あつち

あつち

あつち

あつち

あつち

ちよみえんみすけ  
中納言いふ備

みづあひの

もゆり

ちよみえん

ものうらや

みづあひの

もゆり

ちよみえん

ものうらや

みづあひの

もゆり

ちよみえん

ものうらや



ちよみえんみすけ  
ほむ忠節

みづあひの

もゆり

ちよみえん

ものうらや

みづあひの

もゆり

ちよみえん

ものうらや

みづあひの

もゆり

ちよみえん

ものうらや



くろくさぬらさの

みづあひの

もゆり

ちよみえん

ものうらや

あまのつむぎ

天照御神をく

やとよらう

わらわと八百美の

みづあひの

あまのつむぎ  
山若田のゆき



あまのつむぎ  
山若田のゆき

あまのつむぎ  
山若田のゆき

白川磨



白川磨  
白川磨  
白川磨



白川磨

白川磨

白川磨

白川磨

白川磨

白川磨

白川磨

白川磨



白川磨

白川磨



白川磨

白川磨

白川磨

白川磨

白川磨

白川磨



三十一



坂上平朝



みづの  
ふれまき  
あまき  
かん



まりの  
つれ  
あまき  
あまき  
あまき

つれづれに

あまき

あまき

あまき

あまき

大和片



あまき  
あまき  
あまき  
あまき

平山



あまき  
あまき  
あまき  
あまき

あまき

あまき

あまき

あまき

あまき

記す



伊勢



あまの

山田



いひやうじ世

いひやうじ世

いひやうじ世

いひやうじ世

いひやうじ世

いひやうじ世

いひやうじ世

いひやうじ世

いひやうじ世

いひやうじ世

北友別  
 さいの  
 川  
 千  
 小舟  
 女  
 松



はん  
 美入布  
 こ  
 月  
 う

中  
 人  
 最  
 女  
 女  
 女



二  
 あり  
 浦  
 あり

一人の...  
 土...  
 子...  
 中...  
 中...  
 中...  
 中...  
 中...  
 中...

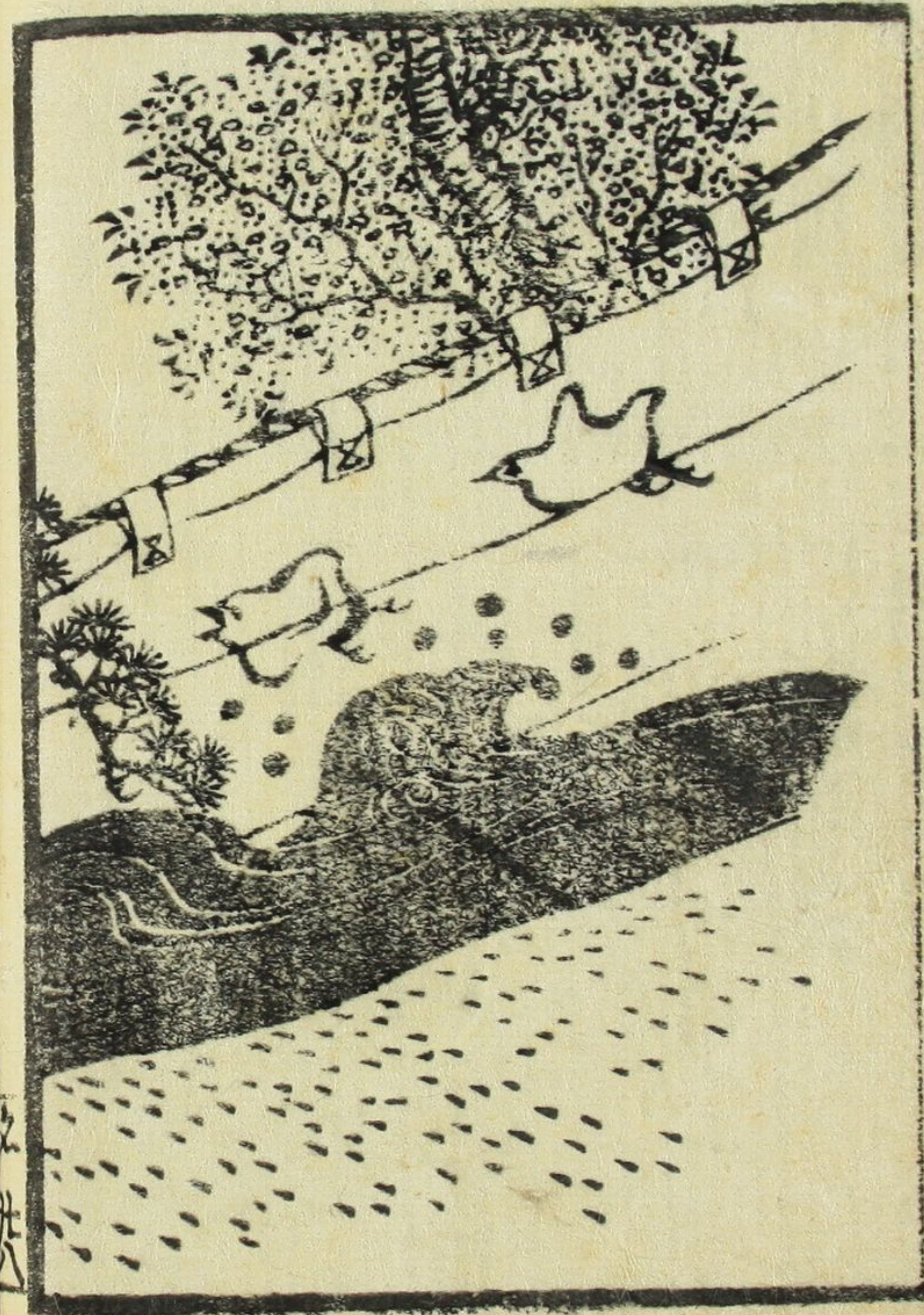


のり...  
 のり...  
 のり...  
 のり...  
 のり...

一人の...  
 土...  
 子...  
 中...  
 中...  
 中...  
 中...  
 中...  
 中...



のり...  
 のり...  
 のり...  
 のり...  
 のり...







さうりんぐとさきぐわく  
 竹友とさき下川  
 安井の夏乃らふ  
 ぐわがわおま  
 やるる春寺八坂  
 奥山と声野山



けいさくまらやまてんりく  
 紙筆と香山と書集  
 ぶそのまらちんたの  
 ろめろけりあり  
 は卯が唐とちめり

ちんたの  
 卯が唐とちめり





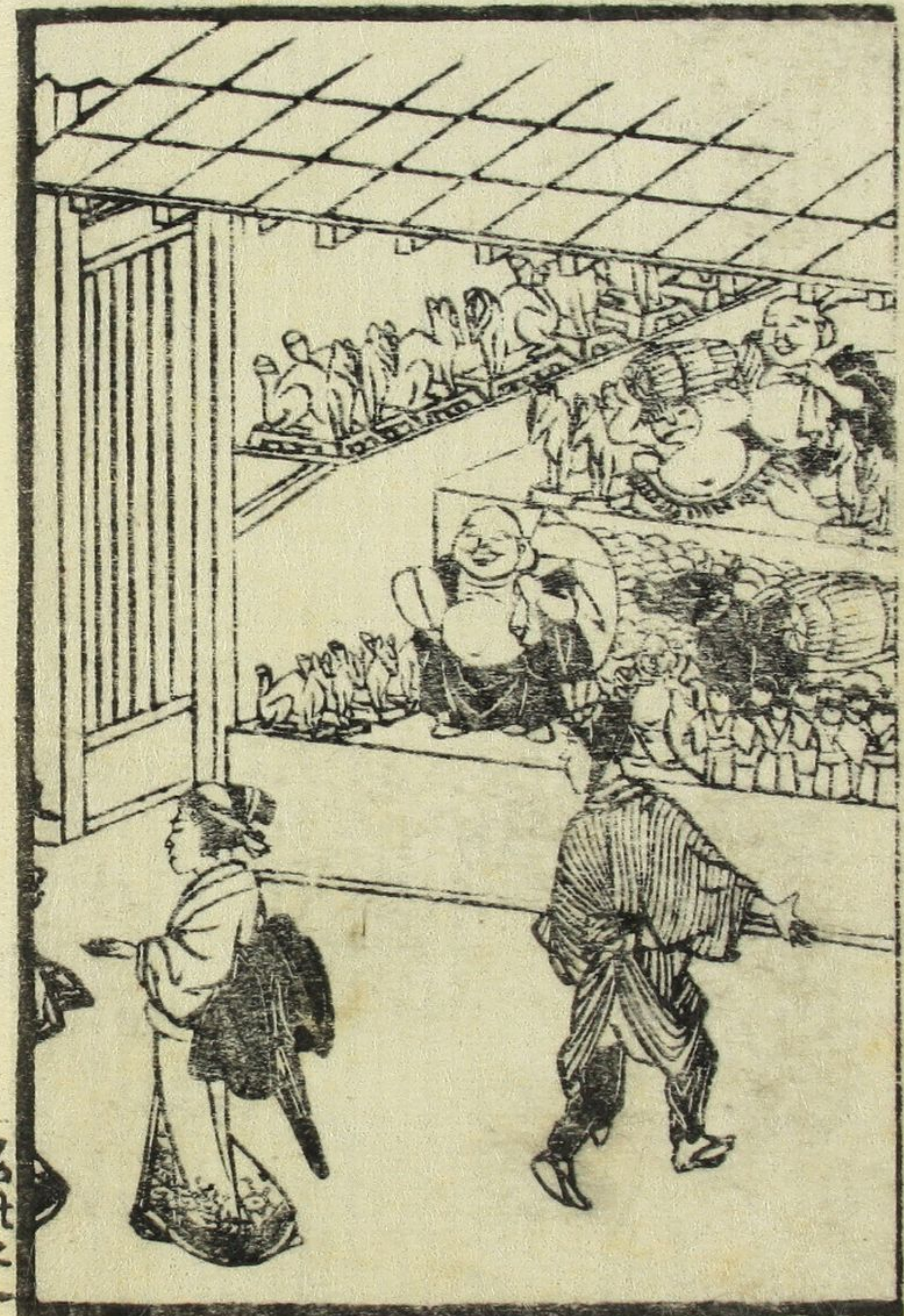
Handwritten text in a cursive script, likely a transcription of a specific name or title. The characters are dense and difficult to decipher without a key.

智 積 院 冬 國 日  
新 小 寺 古 地 跡  
赤 小 寺 古 地 跡  
中 小 寺 古 地 跡  
新 小 寺 古 地 跡

Handwritten text in a cursive script, likely a transcription of a specific name or title. The characters are dense and difficult to decipher without a key.

新 小 寺 古 地 跡  
中 小 寺 古 地 跡  
赤 小 寺 古 地 跡  
新 小 寺 古 地 跡



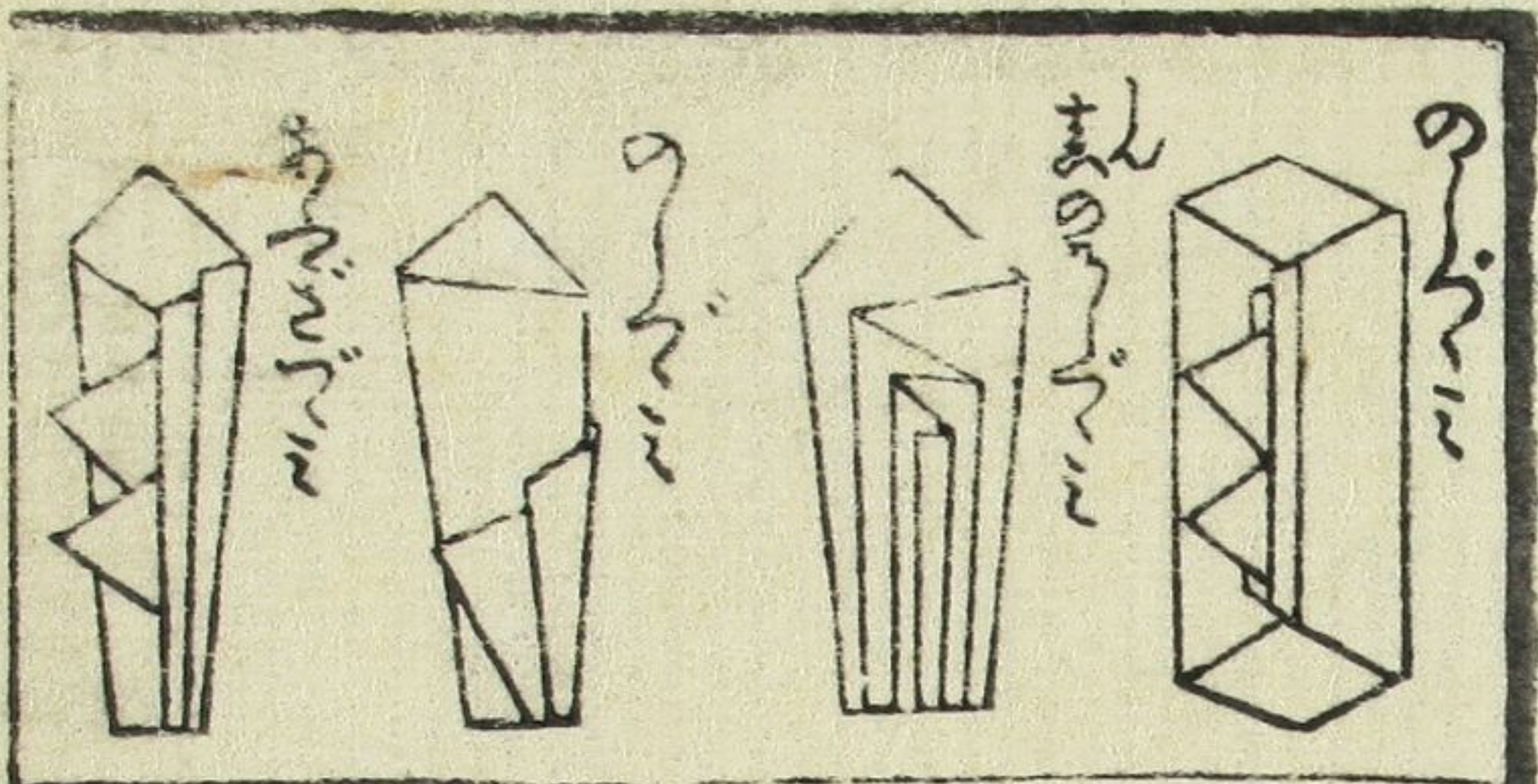


いりあしきとて  
ふりあしきとて  
おとあしきとて  
あしきとて  
あしきとて  
あしきとて  
あしきとて  
あしきとて  
あしきとて  
あしきとて

とてあしきとて  
あしきとて  
あしきとて  
あしきとて  
あしきとて  
あしきとて  
あしきとて  
あしきとて  
あしきとて  
あしきとて

あしきとて  
あしきとて  
あしきとて  
あしきとて  
あしきとて  
あしきとて  
あしきとて  
あしきとて  
あしきとて  
あしきとて

あしきとて  
あしきとて  
あしきとて  
あしきとて  
あしきとて  
あしきとて  
あしきとて  
あしきとて  
あしきとて  
あしきとて



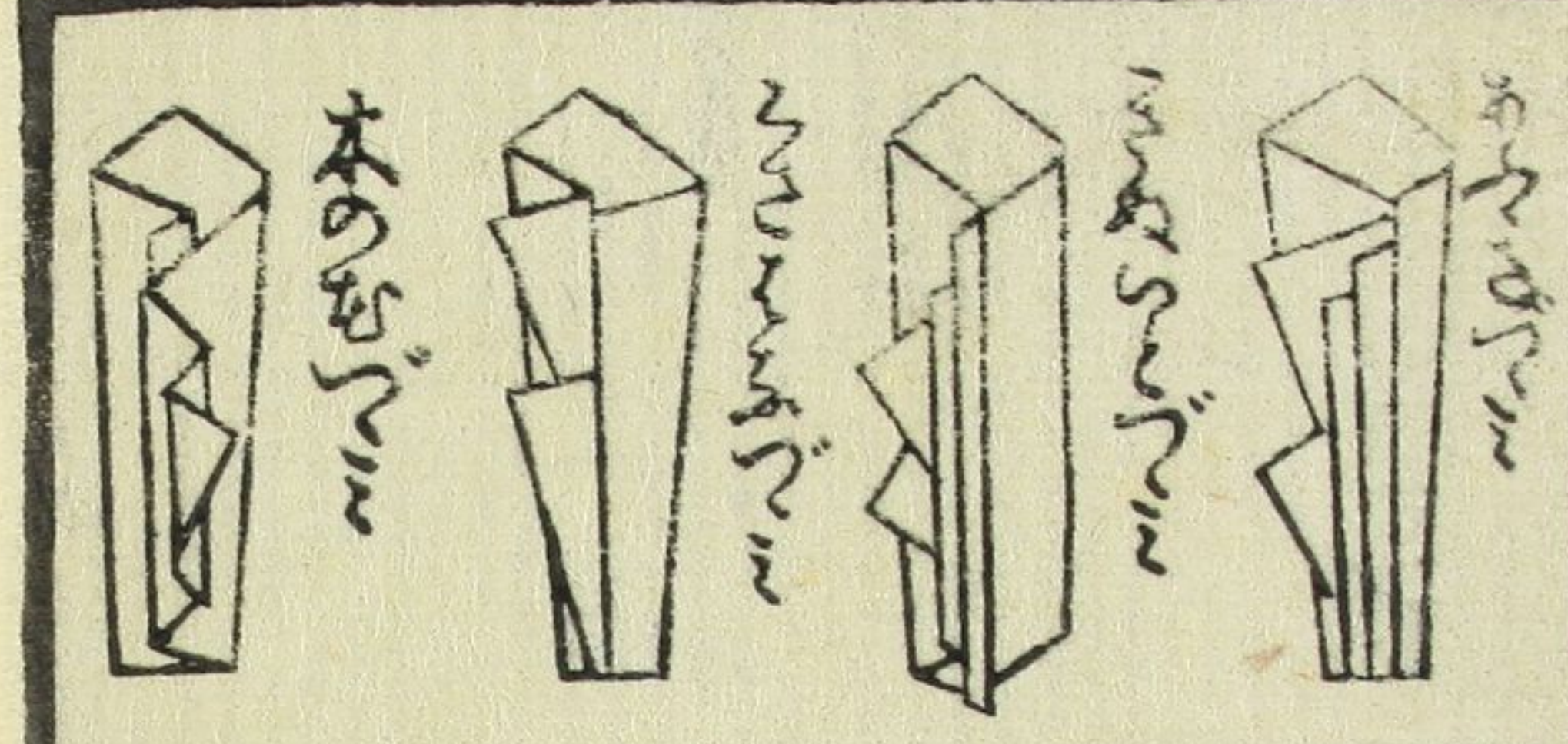
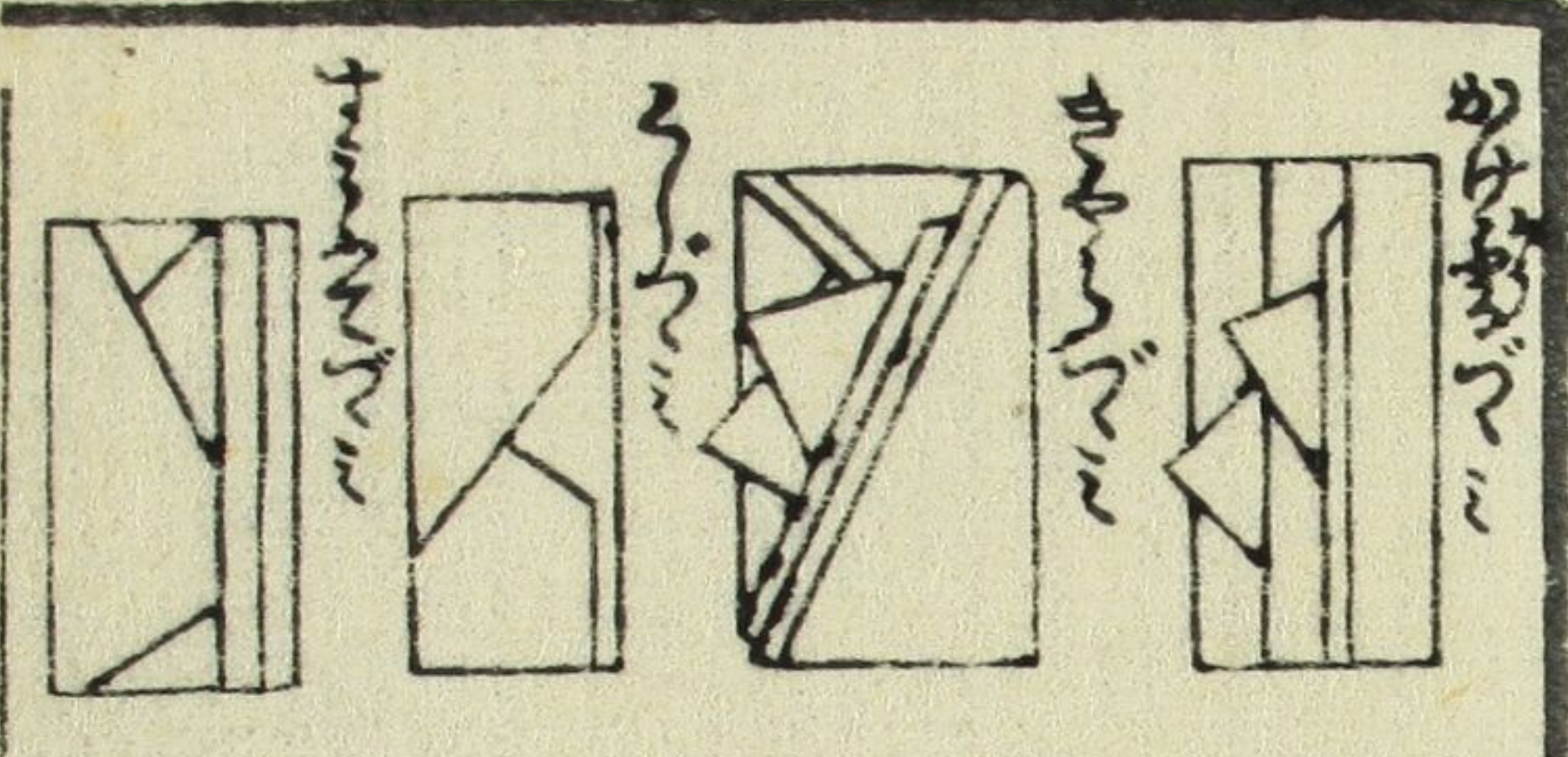
のら  
 まの  
 の  
 の  
 のら  
 まの  
 の  
 の

男の 女の 様



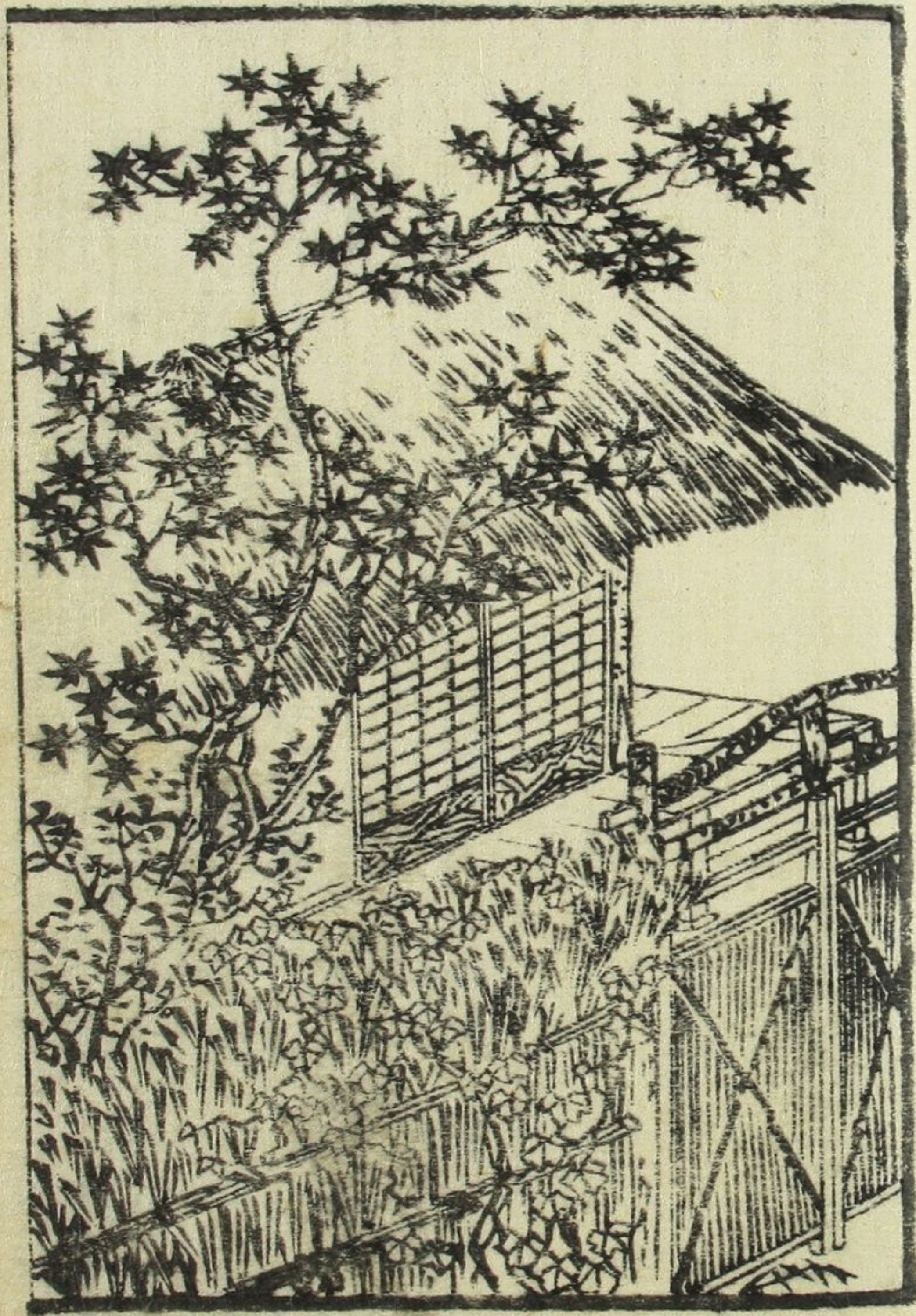
○ 山崎の折紙

山崎の折紙  
 男の 女の  
 山崎の折紙  
 男の 女の  
 山崎の折紙  
 男の 女の  
 山崎の折紙  
 男の 女の

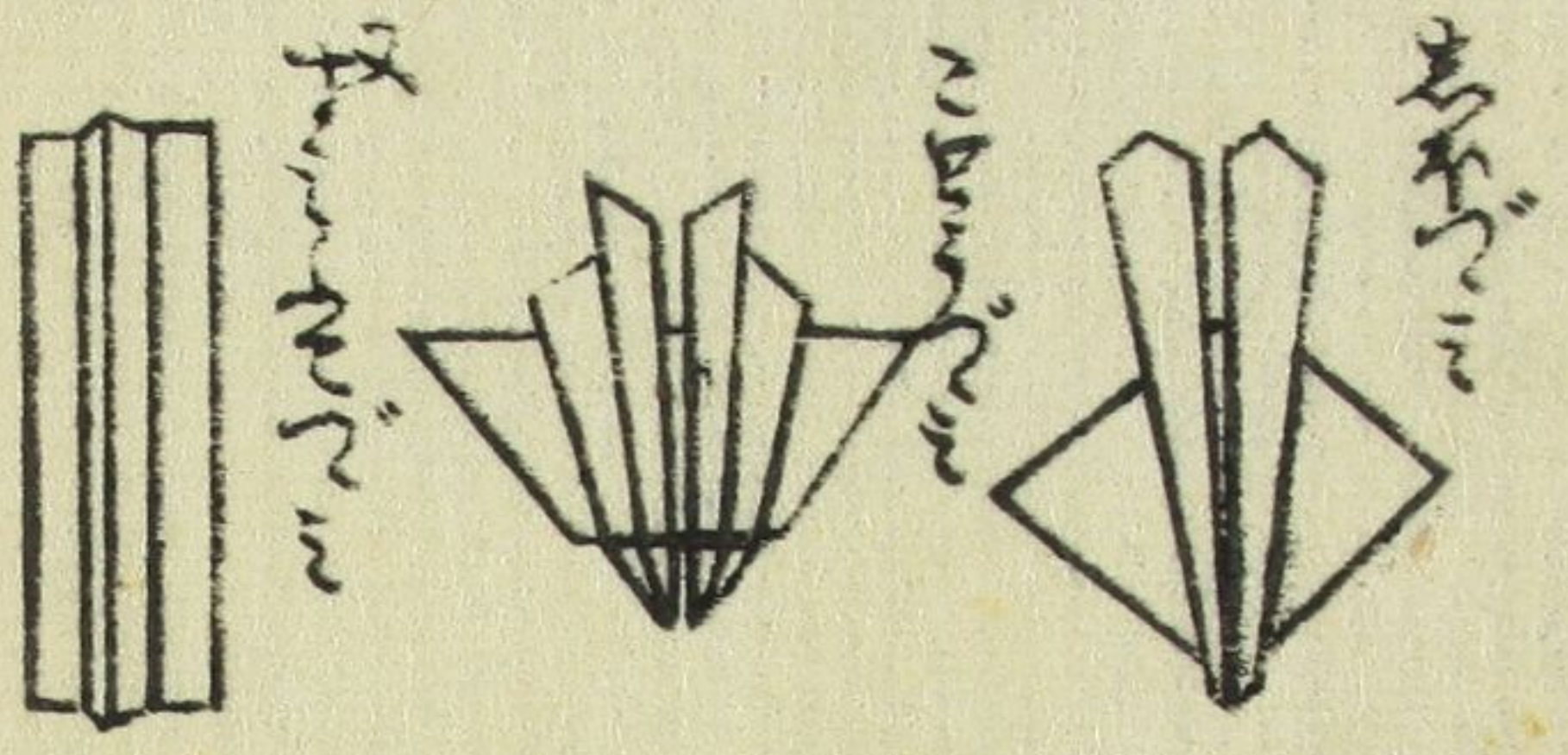


ねがはれど  
 ねがはれど  
 ねがはれど  
 ねがはれど

福の海に舟を  
 舟は福の海に  
 あふ名の船に  
 えんじの寺に  
 野火の舟に  
 清

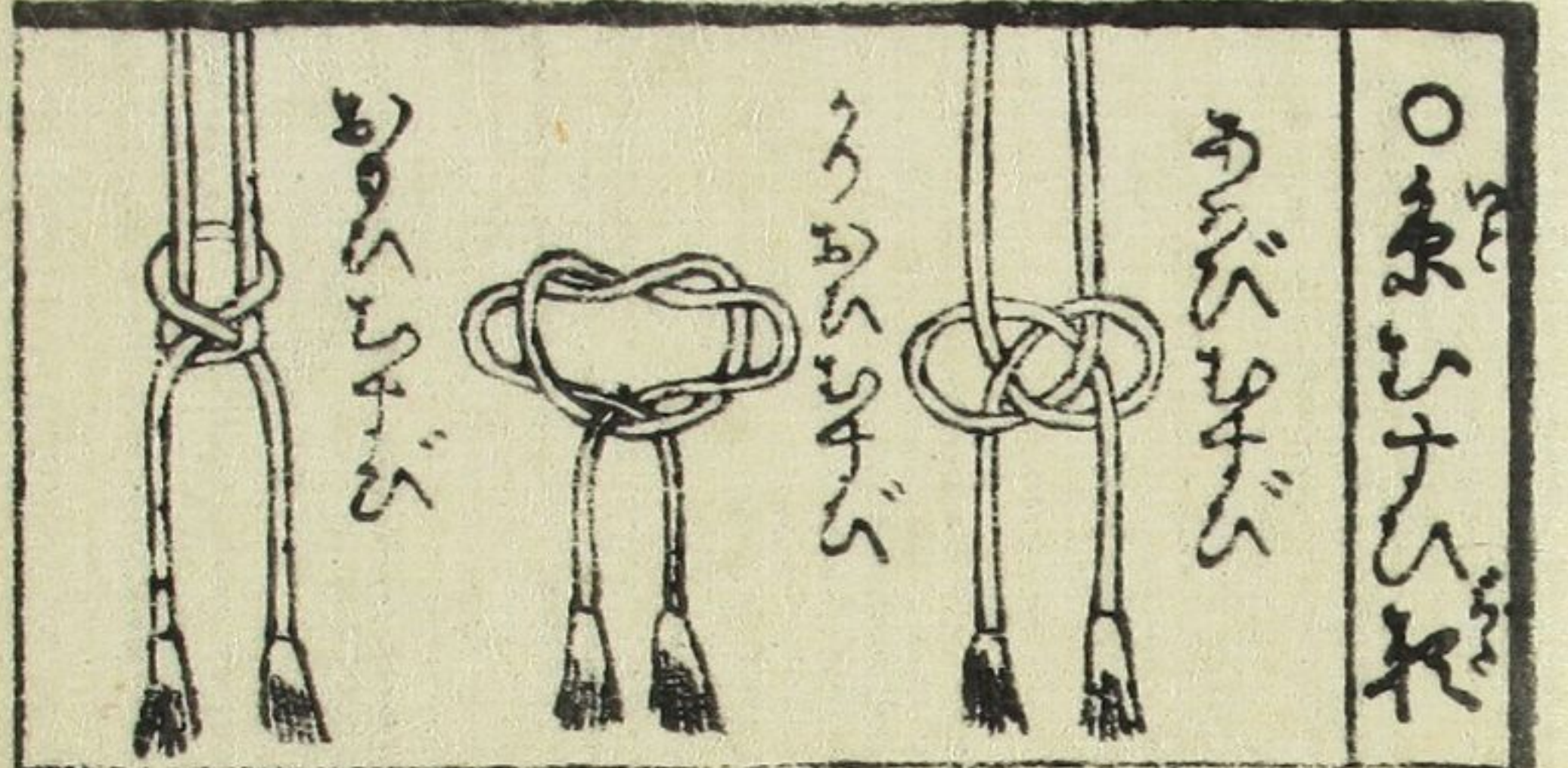


三三



あまのこ  
あまのこ  
あまのこ

雲の少傘のあまのこ  
 此あまのこは山の手  
 しるは梅尾松  
 尾やあまのこ  
 こす月の教すみ

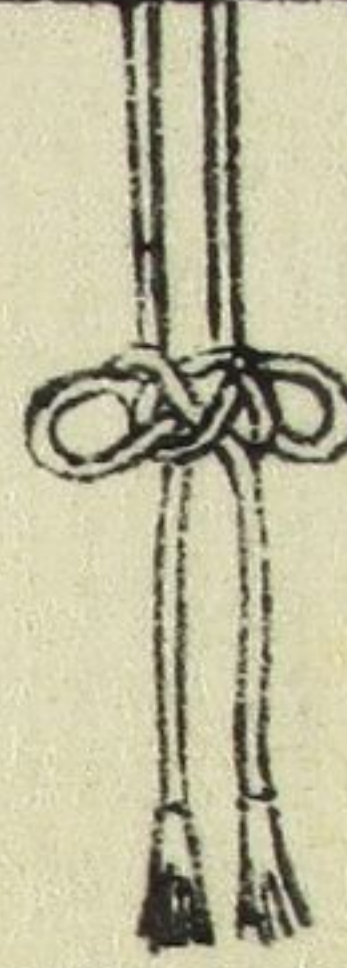


〇あまのこ  
 あまのこ  
 あまのこ  
 あまのこ

〇あまのこ  
 〇あまのこ  
 〇あまのこ  
 〇あまのこ



あがきたるしんぶ



あがきたるしんぶ



あがきたるしんぶ



くねくね きんぶのぶら 髪 あ

あそび あ 田 あ け あ ち あ 湯 あ

あ あ 玉 あ や あ 妙 あ ん あ ち あ 緒 あ

あ あ ち あ ち あ ち あ ち あ 全 あ

あ あ ち あ ち あ ち あ ち あ 全 あ

○女支の結び方

あがきたるしんぶ  
あがきたるしんぶ  
あがきたるしんぶ  
あがきたるしんぶ  
あがきたるしんぶ  
あがきたるしんぶ  
あがきたるしんぶ  
あがきたるしんぶ  
あがきたるしんぶ  
あがきたるしんぶ


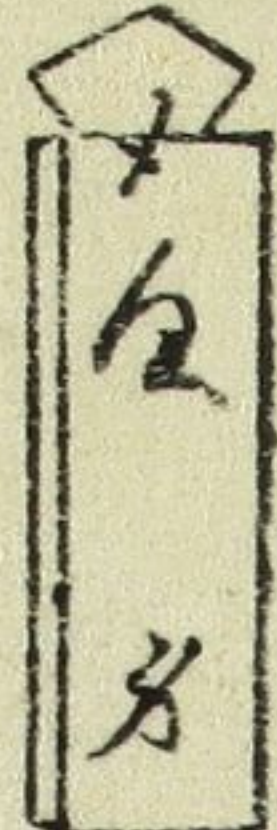
あ あ ち あ ち あ ち あ ち あ 全 あ

あ あ ち あ ち あ ち あ ち あ 全 あ


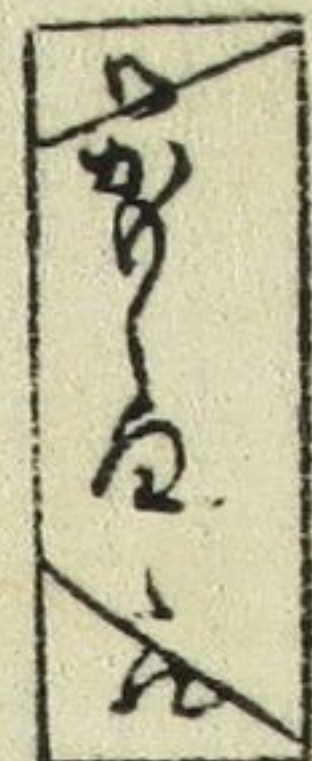
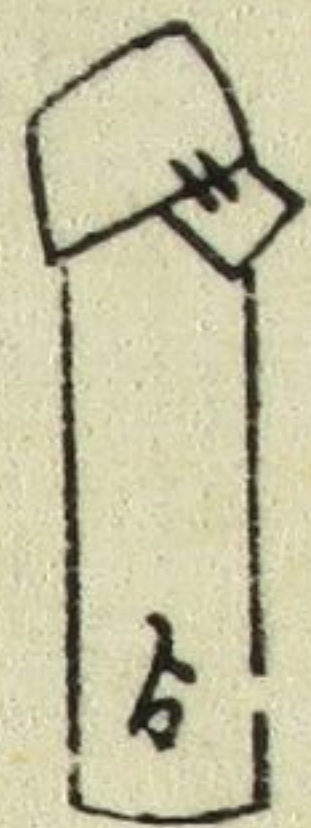
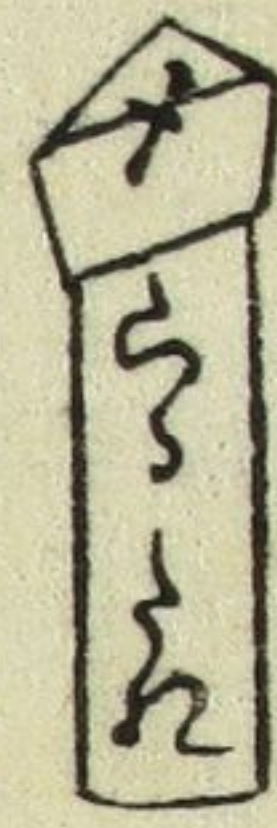
あ あ ち あ ち あ ち あ ち あ 全 あ

あ あ ち あ ち あ ち あ ち あ 全 あ

あ あ ち あ ち あ ち あ ち あ 全 あ

<sup>下</sup>ら  
<sup>下</sup>ら  
<sup>中</sup>ら  
<sup>中</sup>ら  
<sup>上</sup>ら  
<sup>上</sup>ら  



ほんりきんぐわん  
 武士の巻  
 あさひの野  
 稲穂の瑞穂さく  
 もりまのた

小ら  
 のげら  
 一夜のま  
 うら  
 上ら  
 のた

けいけいのせい  
しんじゆのせい  
かみしんじゆ  
しんじゆ  
みしんじゆ  
しんじゆ  
しんじゆ  
しんじゆ  
しんじゆ  
しんじゆ

はらへん  
あまのうら  
あまのうら  
あまのうら  
あまのうら  
あまのうら  
あまのうら  
あまのうら  
あまのうら  
あまのうら

ちり田二

しんじゆ  
しんじゆ  
しんじゆ  
しんじゆ  
しんじゆ  
しんじゆ  
しんじゆ  
しんじゆ  
しんじゆ  
しんじゆ

あまのうら  
あまのうら  
あまのうら  
あまのうら  
あまのうら  
あまのうら  
あまのうら  
あまのうら  
あまのうら  
あまのうら

○ 蘇州の蘇州府

○ 蘇州府の蘇州府  
○ 蘇州府の蘇州府  
○ 蘇州府の蘇州府  
○ 蘇州府の蘇州府  
○ 蘇州府の蘇州府  
○ 蘇州府の蘇州府  
○ 蘇州府の蘇州府  
○ 蘇州府の蘇州府  
○ 蘇州府の蘇州府  
○ 蘇州府の蘇州府

蘇州府の蘇州府

蘇州府の蘇州府

蘇州府の蘇州府

蘇州府の蘇州府

蘇州府の蘇州府

○ 蘇州府の蘇州府

○ 蘇州府の蘇州府  
○ 蘇州府の蘇州府  
○ 蘇州府の蘇州府  
○ 蘇州府の蘇州府  
○ 蘇州府の蘇州府  
○ 蘇州府の蘇州府  
○ 蘇州府の蘇州府  
○ 蘇州府の蘇州府  
○ 蘇州府の蘇州府  
○ 蘇州府の蘇州府

蘇州府の蘇州府

蘇州府の蘇州府

蘇州府の蘇州府

蘇州府の蘇州府

蘇州府の蘇州府



うしてまごいきん  
のうれちみあを  
わいそちありの  
かんす海一  
○んめりのその人  
れまけけあまら  
まんこそおすん  
さうのそいそ  
つんまごいそ  
まらふつる

しんあにわ  
かきあは  
こゆるん  
くわん

八四田

○女中おせあき

△本姓 まみらるえ  
やとさえり  
まんまら  
△火性 らのうら  
うさくす  
ひことや  
△土性 ともこと  
さこち  
ろくちう  
ろくちう  
だん

△金性 くまらるえ  
のふや  
いあちる  
△水性 らるえ  
さるち  
まさき  
△火性 らるえ  
まらち  
くわん  
くわん

○お申さるの款

年増  
ひつと申  
どういふ  
りふ  
おん  
おん  
おん  
おん  
おん  
おん

○男女お此の事

男木 女

木金土  
ちよ  
ちよ  
ちよ

男火 女

火土木  
ちよ  
ちよ  
ちよ

おん

○お申さるの款

おん  
おん  
おん  
おん  
おん  
おん  
おん  
おん  
おん  
おん

男土

女

土金木  
ちよ  
ちよ  
ちよ

男金

女

金土木  
ちよ  
ちよ  
ちよ

男水

女

水金土  
ちよ  
ちよ  
ちよ







あはれおぼしきことなるをばりて人し  
りしるすにさかたはるるなり  
うき世なる世の國傳ふれども  
けしきにいづるといふは人しるる  
をもしるるをばりてなり  
けしきにいづるといふは人しるる  
をもしるるをばりてなり  
けしきにいづるといふは人しるる  
をもしるるをばりてなり  
けしきにいづるといふは人しるる  
をもしるるをばりてなり  
けしきにいづるといふは人しるる  
をもしるるをばりてなり

田中せんらちねらぬみは信を  
地へ産むらぬみは信を  
たやうしんまゝ信守るなり  
等具酒女さうしんまゝなり  
くせしんめいせうしんまゝなり  
中流しんめいせうしんまゝなり  
中流しんめいせうしんまゝなり  
中流しんめいせうしんまゝなり  
中流しんめいせうしんまゝなり  
中流しんめいせうしんまゝなり  
中流しんめいせうしんまゝなり  
中流しんめいせうしんまゝなり  
中流しんめいせうしんまゝなり

中流しんめいせうしんまゝなり





Handwritten text in cursive style (sōsho), likely a signature or inscription, located on the right page of the book.

華洛池田東籬齋編集



文政七年秋七月

浪花 河内屋長兵衛

書肆 皇都 著者屋宗八

吉野屋仁兵衛

